

もっと知りたい! 豊橋創造大学生協同組合

本学の学生や教職員が、安心で安全、健やかで活気あふれる生活環境を楽しむことを目的に、昨年11月、豊橋創造大学生協同組合(生協)が設立され、今年4月から店舗営業が始まりました。そこで、もっと具体的に生協について知ろうと、本学生協代表理事の清水友彦さんにお話を伺いました。



ご当地メニューも登場

食堂のサービスで新たに採用されたのが食堂パス(定期券)。初年度となった今年、48人が食堂パスを購入し、毎日30人以上がパスを使って昼食を食べています。アプリの活用で食事内容がわかることから、保護者にとっては「安心」を確認できる手段になっています。今後は、ご当地メニューのフェアやインドカレーフェアなども開催予定。清水さんは、「食堂も組合員さんと一緒に作っていきたい。利用してみた感想や、意見や要望、出してください」と呼びかけました。



物を制限するなど、独自の安全基準を設けて提供しています」と生協のこだわりについて話す清水さん。

また、本学の専門性の高さを上げ、「ご要望に応えられるよう、授業で使う教科書をはじめ、専門分野に必要な教材や実習等で使うものなども厳選したうえで共同購入し、販売しています」と強調。また、車の免許を取りたい学生たちのための自動車学校説明会の実施や、気軽に相談できる環境も整えています。

より良い大学生活のために

大学生協は、組合員によって作られた相互扶助の仕組みです。ここでいう組合員とは、学生や教職員のことで、大学生活がより良いものになるように手助けします。豊橋創造大学生協同組合では、短大生は2年間、大学生は4年間のキャンパスライフを、様々な面で互いに支援し合うことをコンセプトに、組合員になった人たちを様々なサービスでサポートします。



要望に応え、暮らしを支援

売店の営業時間は、平日の10時から17時まで。店内が見渡せるように、棚のレイアウトも工夫され、商品が選びやすくなりました。一番人気は、お手頃価格のコープ菓子。店内に設置された「生協組声カード」のコーナーには、学生からのリクエストが貼られ、一つ一つの要望にもきめ細かく対応しています。今後も、要望に合わせて、取扱商品なども変えていこうです。

清水さんは、「食堂も売店も、暮らしを支援する様々なサービスも、組合員である学生さんたちの声を大切にしています。みなさんの期待に応えられるように頑張っていきますので、どんどん声をお寄せください」と話しました。



憩いの場

食堂は、色々な種類のものを選択できる「カフェテリア形式」で、現在、1日110人から160人が利用しています。従前と形式を変えたことで、昼時の混雑が緩和され、提供もスピーディーになりました。「食堂は皆さんの憩いの場でもあってほしいと考えています。わいわいがやがやと笑顔で楽しく食事のできる環境と、適温提供にこだわりました」



専門性に対応

「サービスは、安全安心をベースに考えられます。例えば食べ物なら、添加